

史跡賞田廢寺跡現地説明会資料

平成14年 9月29日

岡山市教育委員会

賞田廢寺は、飛鳥時代(7世紀中頃)に建てられ、一部の建物は中世(14世紀頃)まで使われたお寺でした。以前からこの辺りは、白鳳時代(7世紀後半)や奈良時代(8世紀)の古瓦が出土する古代寺院跡として広く知られていました。また、お寺を建てたとされる上道氏の墓(唐人塚古墳)と茶臼山をはさんで相接して営まれていることから、古代豪族の墓と氏寺のあり方を示す典型ともいわれています。

昭和45年、宅地をつくる計画が持ち上がり緊急に調査したところ、白鳳時代と奈良時代の二度に渡って大整備がされていたこと、金堂・塔・西門および回廊・築地跡の一部が発見され、およそ1町(110m)四方の寺域であることが判明しました。塔と西門からは中央の有力寺院では用いられるものの地方ではごくまれな凝灰岩壇正積基壇が用いられていることなどが明らかとなり、昭和47年3月に国史跡に指定されました。

今回の調査は、史跡公園として整備するために、まだはっきりとしていない建物の配置や、それぞれの時期などを確かめることを目的として実施しました。

調査の結果、白鳳期に建てられた金堂は中世に基壇の周囲を掘り下げて基壇を縮小していること、当初西門と考えられていたものは塔であり東西二つの塔があったこと、この両塔の基壇はいずれも中世に破壊されていること、寺域は奈良時代に大きく拡張されていたこと、などが明らかとなりました。

金堂基壇は、南側がすでに削られています。東西15.5m南北12.6mに復元できます。礎石や抜き取り穴から、東西5間南北4間の柱間で、柱と柱の中心間隔は2.4mの建物であったことがわかりました。基壇の外周は基壇上面からおよそ1.8mの深さまで掘り下げられ、瓦の堆積層が3層あり、掘り底付近からは13世紀、一番上の瓦層のすぐ下からは14世紀の土器が出てきました。中間の瓦層上では、自然石を置き並べた基壇外装の修復が認められました。一番上の瓦層では、平瓦や丸瓦が屋根上と同様に組み合っており見つかったり、瓦の回りから広い範囲で炭が見つかったりしたことから、金堂は火災にあって焼失したと考えられます。使われていた瓦の大半は白鳳時代の物で、わずかに奈良時代や中世の瓦が使われたようです。

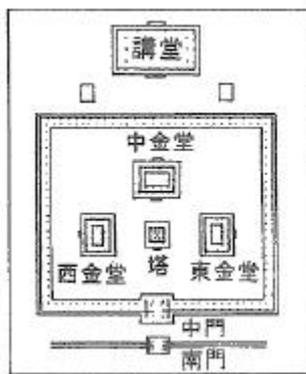
西塔は、いわば2段重ねの基壇を構成しています。一辺約11m四方の凝灰岩

壇正積基壇外装の外側を、自然石を用いて、北・東・西では一段、南面では二段以上を積んだ、一辺約16m四方の石組みが取り囲んでいます。壇正積の基壇外装は西辺の北半分と東階段の基底部(延石と地覆石)のみが残っています。階段は東西二面です。大半は中世に破壊されています。基壇の中央には盛土中に特に多くの石が入れられていて、心礎を受けるために特に強化を図ったと見られます。

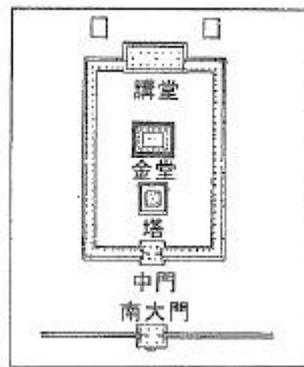
東塔は、凝灰岩壇正積の基壇外装を施した、一辺約12m四方の基壇で、階段が東西二方向につき、西塔同様、中世には大きく破壊されています。

東西両塔の周囲からは、瓦と一緒に地覆石・羽目石・束石などの基壇外装石が見つかっています。これらの石の規格は東塔の物とも西塔の物とも異なっていることから、既に消滅した第三の凝灰岩壇正積があったと推定されます。

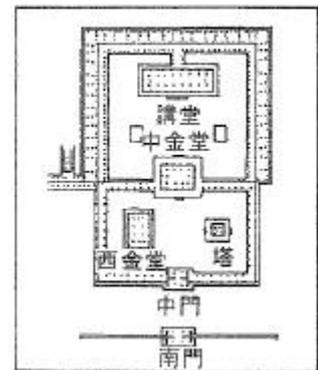
主な遺物は、飛鳥から中世まで各時代の瓦、鷗尾、瓦塔、瓦経などがあります。平瓦の中には、建物木部の塗り替えの時に付いたとみられる朱や胡粉が付いた物もあり、これは軒材から瓦をどのくらい出して葺いていたのかを知る手がかりになる資料です。



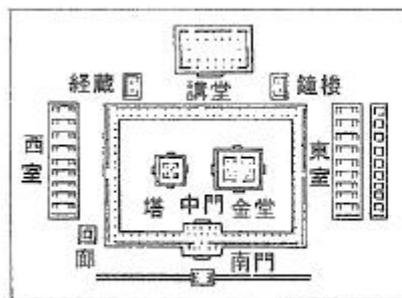
飛鳥寺



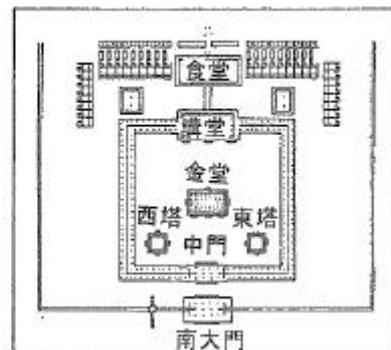
四天王寺



川原寺



法隆寺



薬師寺



賞田院寺

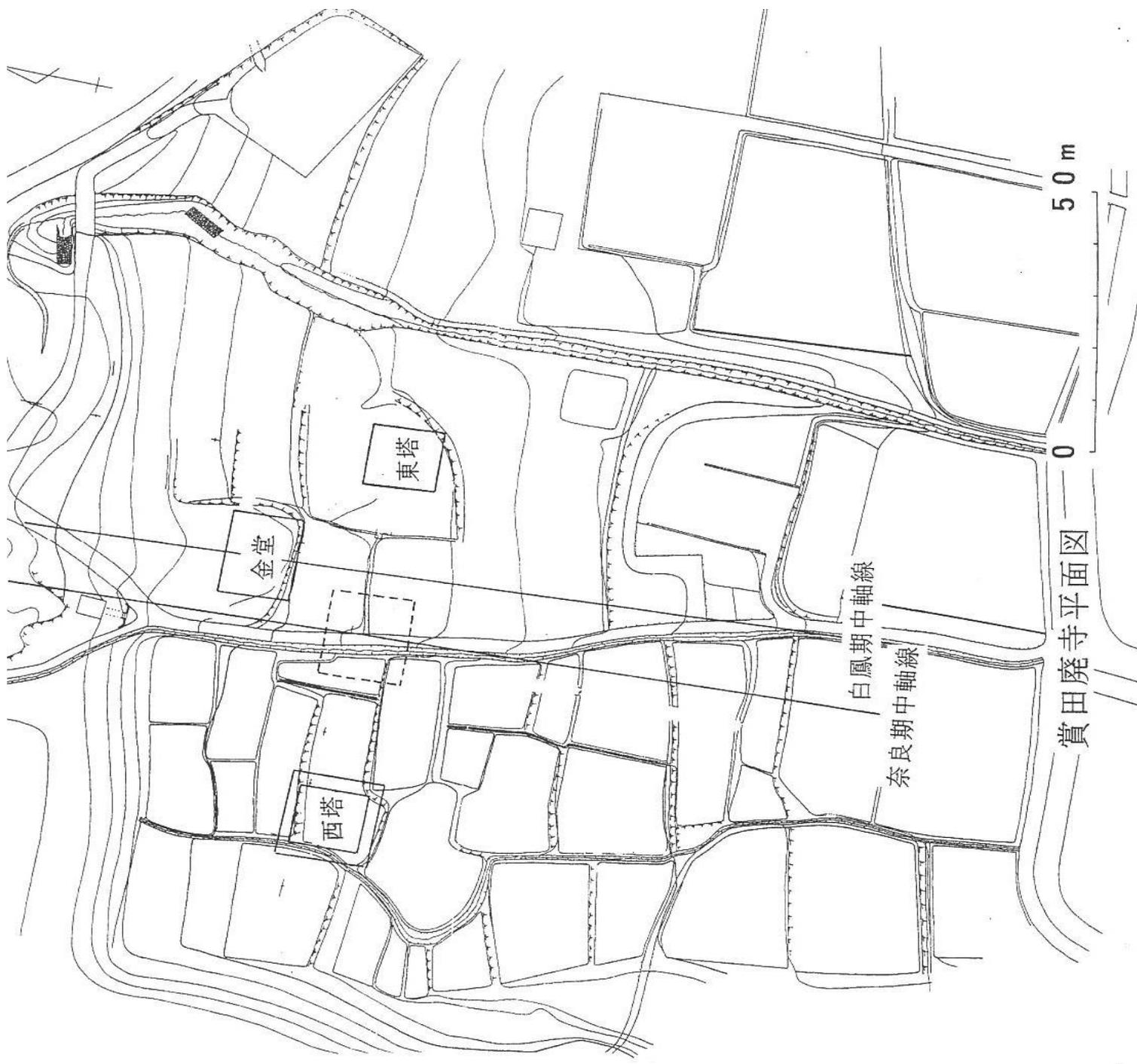
備前国府推定地

井

幡多庵寺

1:10,000

0 100 500 1000



50 m

0

賞田廃寺平面図

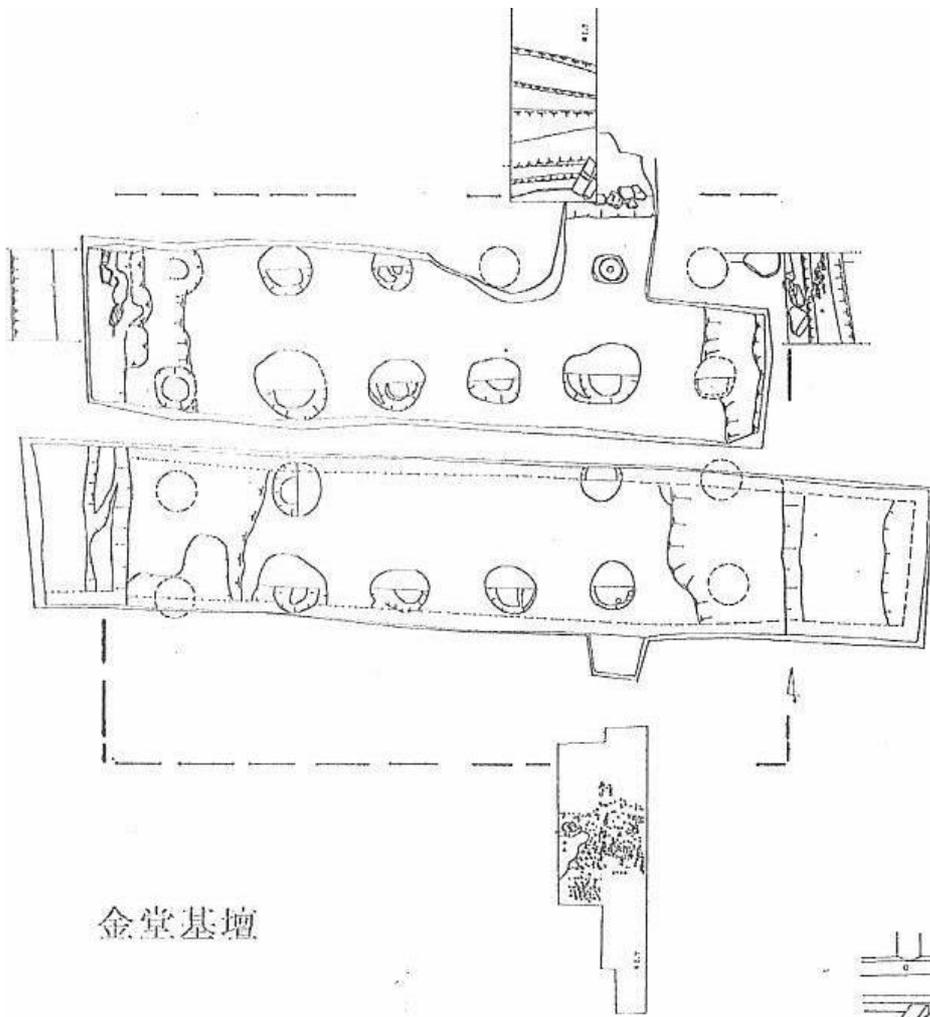
白鳳期中軸線

奈良期中軸線

金堂

西塔

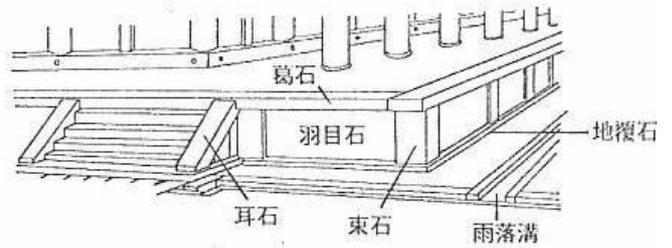
東塔



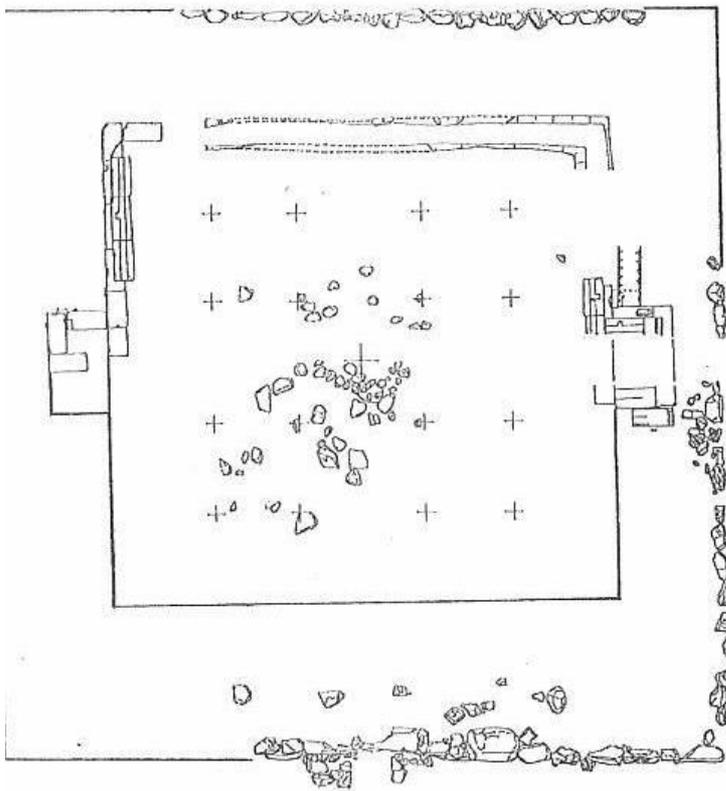
金堂基壇



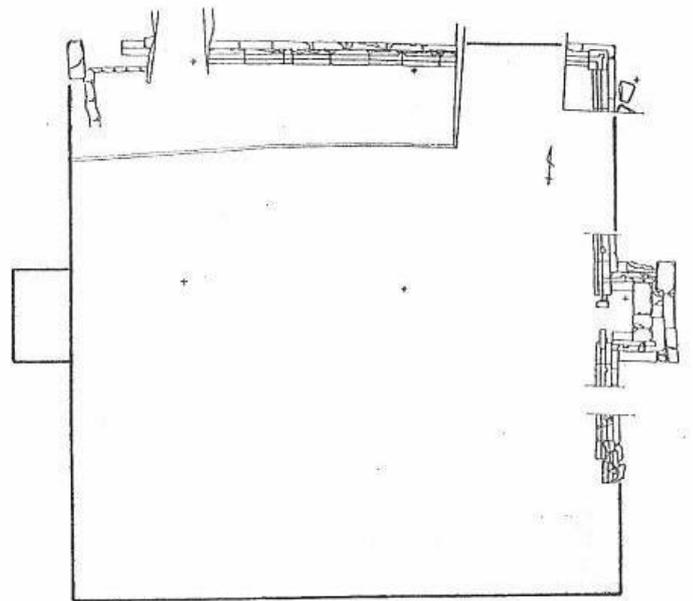
法起寺三重塔



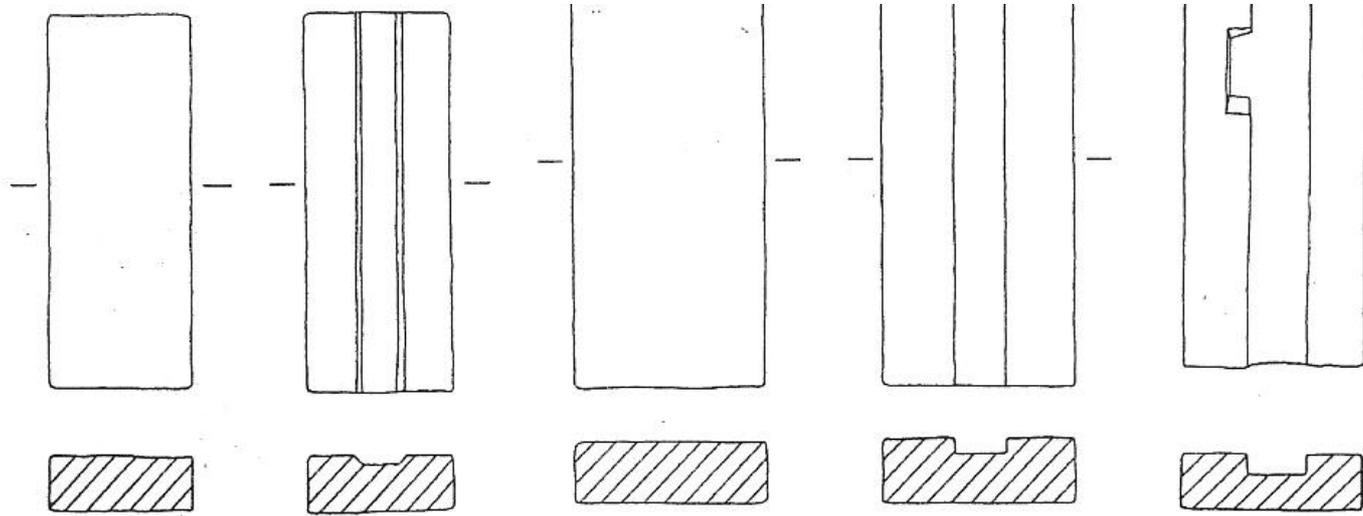
壇正積基壇部分名称



西塔基壇



東塔基壇



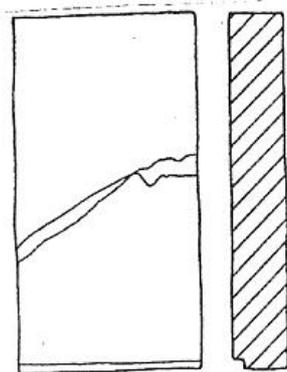
東塔延石

東塔地覆石

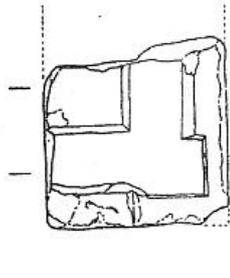
西塔延石

西塔地覆石

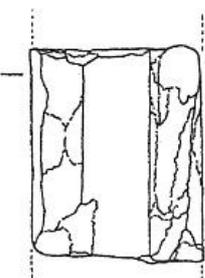
西塔北瓦溜地覆石



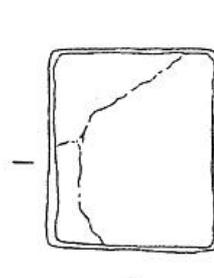
西塔北瓦溜羽目石



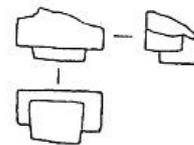
東塔北瓦溜地覆石



東塔北瓦溜地覆石



東塔北瓦溜敷石



西塔東瓦溜束石

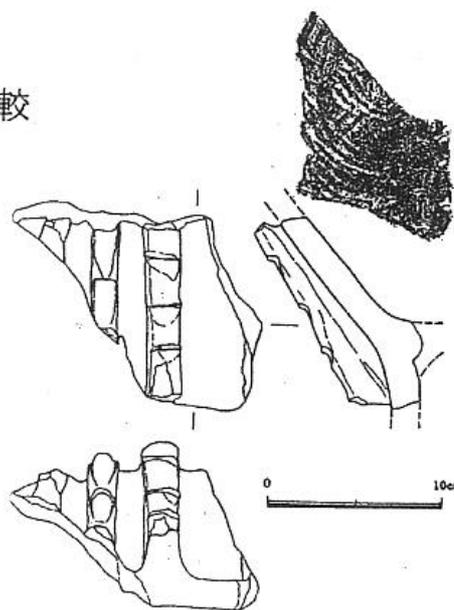
基壇外装石の比較



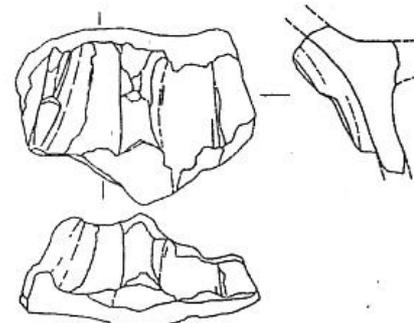
聽世百世
如尊已尊
來知復
諸言



瓦經
法華經卷六



0 10cm

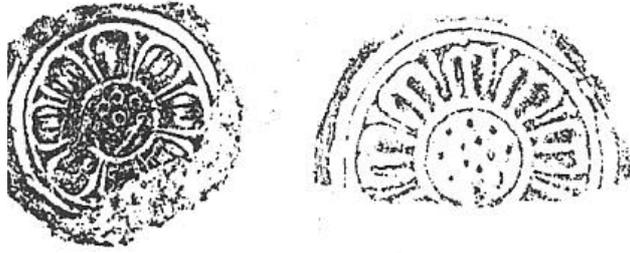
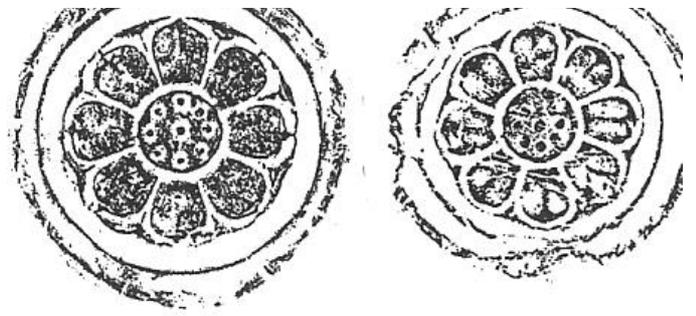


瓦塔

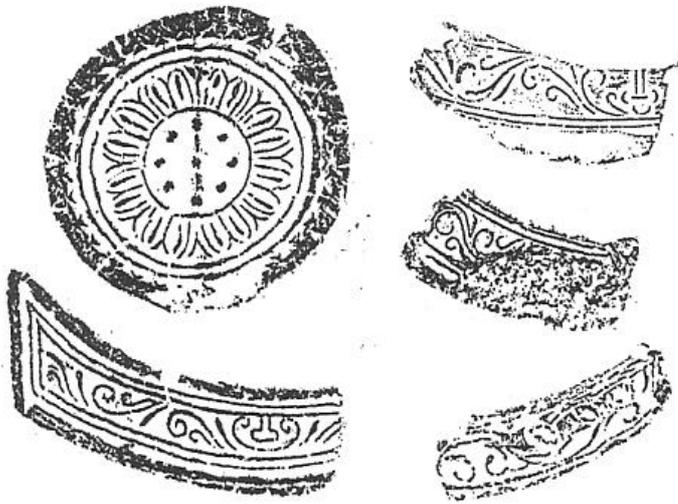
及男
不子
着今



飛鳥様式



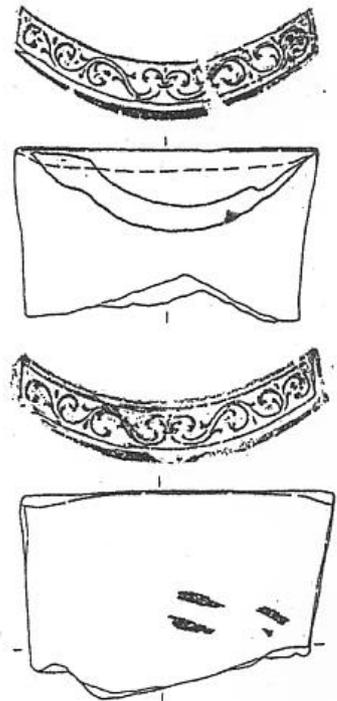
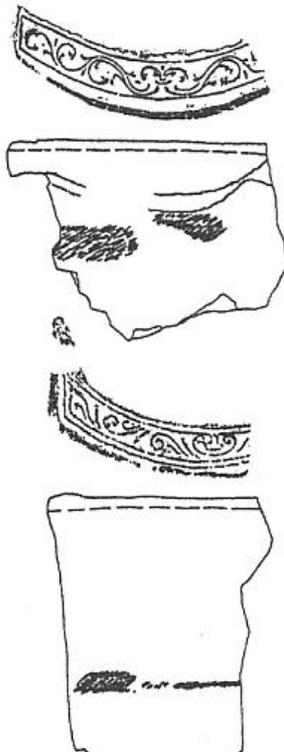
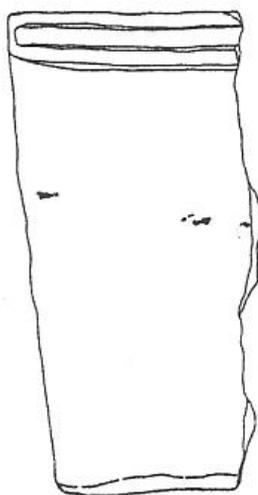
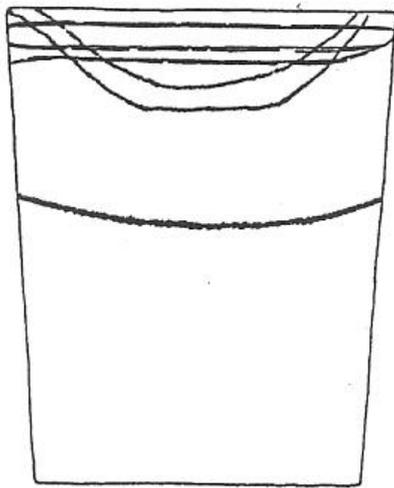
白鳳様式



平城宮式



奈良様式



朱線缸